

## Ryukoku with COVID-19

2020 年	
2月 28 日	卒業式・大学院修了式の中止を発表
3月 2 日	ゼミ合宿、課外活動等の中止または延期を要請
3月 11 日	2020 年度入学式の中止を発表
3月 25 日	授業開始を 4 月 7 日（火）から 4 月 21 日（火）に延期を発表 交換留学生等の 2020 年度第 1 学期の受け入れを見送り
3月 30 日	学生定期健康診断延期 新入生歓迎活動を教室での授業開始まで延期
4月 6 日	2020 年第 1 学期の全ての授業をオンラインで実施することを決定
4月 7 日	政府が新型コロナウイルスに関する特措法に基づく緊急事態宣言を東京、埼玉、千葉、神奈川、大阪、兵庫、福岡に発令 教員の在宅勤務、職員の在宅勤務者を半数とすることを目指して交代勤務体制を整備 キャンパスへの入構制限開始
4月 16 日	緊急事態宣言の区域変更。京都、滋賀を含む、全都道府県が対象に 経済支援奨学金、オンライン授業特別給付奨学金等の支援制度の発表
4月 30 日	教職員による学生への食材提供開始
5月 2 日	緊急事態宣言の実施期間を 5 月 31 日まで延長
5月 4 日	「Ryukoku Online Start-up Week」(ROSW) 開始
5月 9 日	「学長タッパー」がバズる。「ROSW」が Twitter でトレンド入り Web 申し込みによる図書の貸出や雑誌論文等の複写サービスの提供開始
5月 11 日	中国人留学生 OB・OG が 10000 枚のマスクを大学に寄贈
5月 16 日	「Ryukoku Online Start-up Week」(ROSW) 終了
6月 1 日	キャリアセンターによる対面を含めた就職支援再開 図書館開館
6月 18 日	一部実験・実習等対面実施開始
6月 29 日	課外活動の順次再開
7月 1 日	9 月卒業式、入学式の対面形式での実施を決定
7月 3 日	「令和 2 年 7 月豪雨」発生（～31 日）
7月 15 日	第 2 学期の授業を対面授業とオンライン授業併用で実施することを発表
9月 18 日	第 2 学期授業開始
10月 14 日	2021 年度前期出発の私費留学の中止決定
10月 22 日	2020 年度春期休業期間以降の BIE プログラム中止
11月 10 日～15 日	合宿施設での感染確認、全キャンパス構内への学生の立ち入りを禁止 吹奏楽部定期演奏会開催
12月 25 日	
2021 年	
1月 7 日	政府が東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県を対象に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を発出
1月 14 日	緊急事態宣言対象地域に京都、大阪など 7 府県を追加
2月 2 日	政府が、緊急事態宣言発出期間を 3 月 7 日まで延長することを決定
2月 26 日	政府が、首都圏（1 都 3 県）を除く府県において 6 府県に対して、2 月末をもって緊急事態宣言を解除することを決定



「Ryukoku Online Start-up Week」(ROSW) 最終日



ソーシャルディスタンスを確保し開催された  
9月卒業式



宗教部によるオンライン配信の様子

# EFFECTOR



## For an Inclusive Society

vol.5

To Encourage Community Engagement • Volunteering • Sustainable Solution

### コロナ禍の変人

人のあたたかさとご飯の美味しさは変わらない！

コロナ禍での新歓活動・就職活動

Google や Zoom 使いこなせてる？

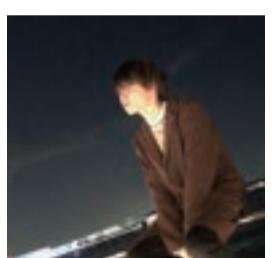
# コロナ禍の変人 ～変える人～

EFFECTORでは、これまで色々な「変人」の方を紹介してきました。ここでの「変人」とは、「世の中や自分自身など、何かを変えようとする人」といった意味合いでいます。

今回は、コロナ禍だからこそ新しいことに挑戦した「変人」の方々を紹介します。

どのような状況になんても出来ることを探し続ける

1人目は、文学部  
日本語日本文学科  
2年生 中尾時雄  
(なかおときお)さんです。生協学生委員会にて、副委員長を務めています。  
コロナ禍において、どのような取り組みを行われたのか、お話を聞いていきたいと思います。



何が正解なのかわからなくなってしまった

はじめに、中尾さん自身が、コロナ禍において考えたことや大変わったことはありますか？

中尾：そうですね、大学関連のことと言えば、授業がオンラインになって、何をしたら正解かが分からなくなりました。初めてのことだけではなくて、それでも、友達がいてくれたので、一緒に協力しながら頑張っていました。あと、生活習慣が大きく変わって不規則な生活のオンパレードでしたね（笑）

オンラインで学生をサポート

確かに。今ではかなりオンライン授業にも慣れましたが、初めは戸惑いが大きかったです。それでは、そのようなコロナ禍において、どのような活動を始められたのでしょうか？

中尾：主なものとしては、「友達作りのサポート」「履修登録のサポート」「学生生活全般の相談会」「健康について考えてもらう企画」などです。これらの活動の多くは、zoomを使ってオンライン上で行いました。

「友達作りのサポート」なら、例えば「学部別交流会」という企画をしました。1回生のために、アイスブレイク（緊張をほぐすための簡単なゲームや話すこと）や悩み相談の場を作りました。僕たち学生委員会の先輩もいるので、先輩への相談も勿論OKです。特に、経営学部は、1年生の後期からゼミ活動が始まるので、そうした話題もありあげました。

久しぶりの対面企画も大成功

中尾：「健康について考えてもらう企画」については、3密に注意しながらの久しぶりの対面企画でした。11月の末頃に、深草キャンパス2号館のR-uni前で行いました。昨今流行りの「鬼滅の刃」に肖り、「全集中 健康の呼吸」と題しました（笑）。僕自身もそうでしたが、新型コロナウイルスの影響で、生活リズムが乱れてしまった学生が多いと聞いたんです。そこで、各々の健康状態を知ってもらうために、体組成測定や视力検査などを実行しました。

あと、広報用のTwitterやInstagramも積極的に更新するようになりましたね。オンラインイベントに関わる投稿だけでなく、SDGsの紹介のような雑学的なものや、大学から支給された食材を使ったレシピなど、学生の皆さんの役に立てるような情報も投稿しました。

憧れの大学生活を楽しむお手伝いをしたい

今回のような企画をしようと思ったきっかけは何ですか？新入生の歓迎イベントは、毎年してらっしゃるそうですが、今年はかなり充実した企画が多いですね。

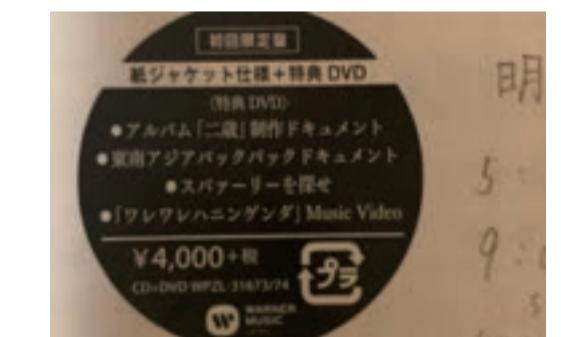
中尾：自分たちでさえ何が正解かわからないのに、1年生は「大学生活」というくくりで見ると何の基盤も無くて…。せっかく頑張って合格して、大学生になったのに、大学生活を楽しめないのは可哀想だと

「マイノート」とは何ですか？

松原：固有名詞を上手く説明出来るか分からないのですが、スケジュールからTo doリスト、日記……何でも書き込むためのノートを持ち歩くようになりました！いわゆる、バレットジャーナル（スケジュールや課題、メモなどあらゆることを簡条書きにし、まとめて管理するもの）に近いですかね。YouTubeやネットにある、オススメの書き方を参考にして、自分なりに毎日書いています。

記憶の容量を有効的に使いたい

松原：ただ書くだけじゃなくて、ちっちゃい紙やシール貼ることもあります！例えば、こういう風に、CDのビニールに付いているシールを貼ってます。自分の記憶の容量には限界があるので、このノートにジャンル関係なく全部アウトプットするようにしています！



1回生からは、どのようなアクションが返ってきたのか？

中尾：最初は、参加者が少なく、1年生からのリアクションも薄かったです。オンラインで顔が見えないので、こちらも余計に苦戦しました。ですが、回数を重ねるごとに自分たちの活動の知名度が上がり、参加者も増えています。企画後に事後アンケートに答えてもらったところ、殆どの企画が満足した参加者の割合が90%を超える結果でした。本当に嬉しかったですね。

「今何ができるか」を考え続ける

今後は、どんな取り組みをしていきたいですか？

中尾：今はまだ計画途中で、未定な部分が多く、はっきりとは言えないのですが……。そうですね、どうしても今後しばらくは、コロナに目がいきがちだと思うんです。ですが、コロナ以外の問題にも目を向けていくことが大切だと思うので、引き続き「自分たちは今何ができるか」ということを意識しながら、行動を起こしていくと思います。

はじまりは余暇から

2人目は、文学部臨床心理学科2年生松原愛（まつばらまな）さんです。コロナ禍でどんなことを始めたのでしょうか？

何でもあり！「マイノート」

松原：すごく個人的なものですが、「マイノート」という手帳術的なものを書くようになりました。



自分の思いや考え方を文章にするのが好きだったのか？

確かに！記憶や思い出を整理していくことって大切ですよね。そのような「マイノート」を作るようになったきっかけはありますか？

松原：そうですね～、それまでも、ダイエットの記録などをするついでに、日記を書くことがあったんです。たぶん、ずっと何かを書くことが好きだったのかもしれませんですね。

ちょうど去年の春休みが、新型コロナウイルスによる自粛期間だったじゃないですか。すごく時間がついたので、ノートに好きな歌のレビューをたくさん書き上げていきました。そしたらハマっていっちゃって！「もっとこういうの書きたい！」って思ったことがきっかけですね。そこからは、ネットやSNSを参考に、試行錯誤して作り上げていきました！ちなみに、これが今使っているものです！今回から、イラストっぽいもの入れ始めました。せっかくなので、コロナ禍が終わった以降も続けていくつもりです！（大八木晴菜）

※インタビューは、オンライン上で行いました。  
※おふたりの写真は、コロナ禍以前のものです。

# コロナ渦で変わったこと、 変わらないこと

人のあたたかさとご飯の美味しさは変わらない

新型コロナウイルスの影響で、あらゆることが変化してしまいました。マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、昨年の流行語にも選ばれた「オンライン○○」など…。こうした「新しい生活様式」に付随して、人との関わり方も大きく変わりました。家族や友人、恋人とも思い通りに会えない、新しい出会いもなかなかない……寂しさやもどかしさを感じた方も多いと思います。

蓮華

多くの龍大生から、「安くて美味しいボリューミー」との声多数！アットホームな定食屋兼居酒屋さん。

〈お店のこだわり〉

そうですね、学生さんが多いので、皆さんに「お腹いっぱいになってもらいたい」と思っています。

〈コロナ渦で変わったこと〉

出前館やUber Eatsといったデリバリーを始めました。有難いことに、多くの学生さんから反響をいただいています。出前館では、自ら配送しています。

〈感染対策について〉

張り紙での周知、換気対策、アルコールの備え付け、マスクでの接客など、感染対策は万全！始めは、アルコール消毒や食後すぐのマスク着用の声掛けなど、せっかく楽しんでいただいているにお伝えするのが少し心苦しかったです。でも、「みんなの為にやってもらわない」と思っているので、ご協力お願いします。

〈オーナーさんよりひとこと〉

しんどい時期が続きますが、少しずつ皆で頑張っていきましょう！常連で来てくれていた学生さん達は、ほとんど会えてないと思うけど…。会えるようになつたら、早く会いに来てくれるとい嬉しいです！！

〈場所〉

京都市伏見区深草綿森町17-8

コープ郷1階

師団街道龍大前交差点を東へ南側

〈営業時間〉

11:30～23:00 (L.O.22:30)

〈SNS〉

Instagram @rengegram

Facebook @rengefoods



〈感染対策について〉

アルコール消毒、パーテーションの設置、マスクでの接客とかですかね。前までなら、学生さんがわいわいしてるので見て楽しんだり、話しかけたりしてたけど、今はそれも気を遣う。寂しいし、はやく元通りになるとえんやけどね。

〈オーナーさんよりひとこと〉

アルコール消毒、パーテーションの設置、マスクでの接客とかですかね。前までなら、学生さんがわいわいしてるので見て楽しんだり、話しかけたりしてたけど、今はそれも気を遣う。寂しいし、はやく元通りになるとえんやけどね。

〈場所〉

京都市伏見区深草稲荷鳥居前町22-15 東門を出て北へ250m東に入る

〈営業時間〉

月～金 11:00～18:00 土日祝 10:00～18:00

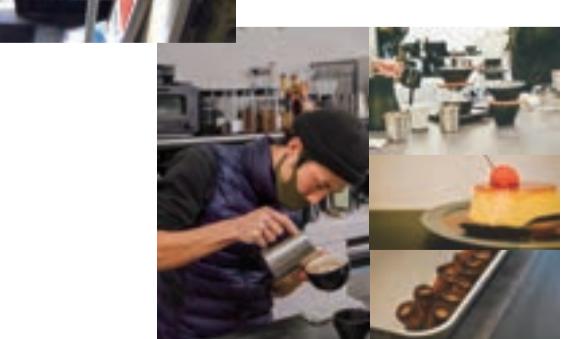
〈ホームページ〉

<https://aboutuscoffee.stores.jp/>

↑オンラインショップもこちらから。

〈SNS〉

Instagram @about\_us\_coffee



しかし、コロナ渦においても“変わらないこと”があるのではないでしょうか。私にとっての“変わらないこと”とは、「人のあたたかさ」と「ご飯の美味しさ」でした。

深草はラーメンだけじゃない！深草といえばラーメン激戦区として有名ですが、ラーメン以外にもスポットを当て、深草キャンパス近くにある「龍大生おすすめの飲食店」を紹介します。それぞれのお店の方々に協力していただきました。

天えい

40年以上、龍大生や教職員の方々から愛される天ぷら屋さん！

〈お店のこだわり〉

出来立てを食べてもらうこと。注文が入ってから料理しますんで、全部「揚げたて」「焼きたて」「おろしたて」。食材にもこだわっているんで、旬の食材や出来立ての食感を楽しんでもらいたいですね。

〈コロナ渦で変わったこと〉

以前は、部活動とか団体で学生さんがよう来ててくれたけど、最近はやっぱり1人、2人のお客様が多いなあ。仕方がないけれど、活気がなくなってしまったのが寂しいね。

メニューも季節によって変えてるんやけど、今年はスパンも変えざるを得んかったなあ。旬の食材やから難しかったけど、出来る限り多くの人に食べてほしくて頑張りましたね。

〈感染対策について〉

アルコール消毒、パーテーションの設置、マスクでの接客とかですかね。前までなら、学生さんがわいわいしてるので見て楽しんだり、話しかけたりしてたけど、今はそれも気を遣う。寂しいし、はやく元通りになるとえんやけどね。

〈店主さんよりひとこと〉

そやねえ。高校生～大学生にかけては、子どもの味覚から大人の味覚に変わる時期やし、せっかくならいろんなもの食べてみてほしいね。それが例えばうちの店やって、「牡蠣食べれへんかったけど、食べれるようになった！」とか「美味しいかった！また来ます」とか聞くと、僕らも嬉しいし。いろんなもん、食べて下さい！

〈場所〉

京都市伏見区深草西浦町4丁目9-1

〈営業時間〉

11:30～15:00

18:00～20:30 (L.O.20:00)

(※時間短縮での営業時間は、～20:00まで。

(L.O.19:30))

〈定休日〉

日・祝

〈SNS〉なし。



## コロナ禍におけるQOLの質の変化

コロナ禍に伴い、私達の生活様式も大幅に変化しました。今回は「コロナ禍におけるQOLの質の変化」と題し、

～自分達のQOLを見つめなおす～

～自粛を強いられる今だからこそできる取り組みや過ごし方を考える～

この2つの記事をお送りします。

## 自分達のQOLを見つめなおす

相手の世界を通じて自分の経験を見つめ、その意味を読み解きたい、コロナを他人事に思わないために共感的理解で相手の世界に近づきたいと考え、アンケートを行いました。

### ＜アンケート＞「コロナ禍におけるQOLの質の変化」

「コロナ禍による、心、身体、意識の変化はありましたか。その内容を教えてください」  
アンケート対象者 家族、親戚、友人、お世話になっている先生、近所の方々（30代～70代）

期間 おおよそ一年のコロナ禍  
方法 インタビュー、紙面調査、アプリ「LINE」を使用した間接的なやりとり

#### 円形脱毛症を抱える方

- ・被ることが少なくなった為、ウィッグに対するストレスが減った（ムレ、取れる心配など）。
- ・入念なウィッグのお手入れが減った為、楽だ
- ・たまにするお出かけで、おしゃれ（ウィッグのアレンジ）が楽しめる
- ・ウィッグなしのありのままの自分を好きになれた（ウィッグをつけることにより精神的な窮屈さがあることを知った）

#### 一人暮らしの70歳代

- ・家に閉じこもる時間がが多くなり、憂鬱
- ・人と会うことが減り、楽しみ（パソコン教室へ通うこと）が減る
- ・買い物に行かなくなり、無駄遣いが減る

#### 10代（中学生）

- ・大会、コンクールの減少により、部活の向上心が下がった
- ・勉強意欲の低下→スマートフォンの時間が増える

#### 20代（大学生）

- ・暴飲暴食
- ・P.C.の扱いに慣れた
- ・人間関係の煩わしさから解放されて楽だ
- ・マスクするのが習慣で、風邪をひきにくくなったり
- ・メイクをするのも落とすのも楽
- ・夏は特にマスク内が汗で蒸れて不快
- ・友達と気軽に遊ぶことができない
- ・スーパーでレジしていると、ビニールカーテンがあるため、お客様の声が聞こえづらい、自分の声も通りづらい
- ・咳やくしゃみ、人の距離感に敏感になる

#### 50代（男性）

- ・電車通勤が悪い

#### 50代（女性）

- ・田舎の高齢の母が気になる（近所の目を気にする為、帰郷できない）
- ・マスク不足に困惑
- ・フェイクニュースによる消費者の動き（トイレットペーパーの買い占め、除菌商品の買い占め等）に翻弄される
- ・子どもの休校やオンライン化で、水道代、電気代が上がる
- ・子どものテレビの視聴時間やスマートフォンの使用時間が増え、視力低下、睡眠不足が心配
- ・衛生面で気を付けるようになり、様々なウイルスに対する自己防御の意識が高まった

（アルコール消毒、つり革や手すりとなるべく持たない、朝のうがい等）  
・ハンドドライヤーが使えないため、子どもも含めハンカチを持つ癖がついた



までよりも持つようになった。  
・母を守り、健康でいてもらえるようにすることが、私の役割であり、喜びである  
ことを強く感じている。  
・いろいろな人に支えられ、いろいろ見えない力に支えられ、守られ 健康でいられること、小さな幸せを感じながら生きていられることへの感謝が、コロナ禍の生活を困難だけとしない力につながっているよう



#### 30代（女性）

- ・外出中、子どもがトイレへ行きたいと言うので、店員に、行かせてほしいと声をかけるが、コロナで使えないと断られる

#### 龍谷大学短期大学部こども教育学科 S先生

心特に変化はなし 平常心を大切にしている  
身体→案外、平気（感染予防に気をつけながら、必要以上の行動を制限していないから、家にこもっていても、飼い猫が安心感や笑いを提供してくれるから）  
ちなみに...  
猫は、ずっとステイホームですが、とってもマイペース。不平不満を言わず、いつもご機嫌。猫はステイホームの先輩 だそうです。

意識→、心身にダメージを与えそうなので、コロナに関する報道は極力見ないようにする（コロナにより生活がとても苦しくなっている人達がいることを実感中、自分にできることは微々たるものだが、それでも少しずつ貢献はしている）。  
誰もが特にこの時代、自分の行動に責任を持ち、日々内省を行なうべきなのです。そして、「相手にどんな働きかけができるだろうか、自分に今できることは何なのか」、この考えを大切に行動に移していきましょう。人間関係や何かしらの出会いを運命的な良いものに変えていくのかもしれません。身近な環境でのたくさんのかな出会いや発見を満遍なく自身の宝物にし、縁を大事にしていきたいですね。（森本千雅）

#### まとめ アンケート調査を終えて

一人ひとり暮らし方が違うからこそ、色々な人のコロナ禍の生き方を客観的に深く感じ取ることができました。そうすることで、何に対しても、他人事に思わない心を養うことの必要性を実感しました。  
例えは最近、町を歩いていてもマスクのポイ捨てが急増しているように思います。これに対してあなたはどう思いますか？自分勝手に捨てる人がいるために、コロナ感染のリスクを高めているのです。非常に危険性を孕んだ行為なのです。

誰もが特にこの時代、自分の行動に責任を持ち、日々内省を行なうべきなのです。そして、「相手にどんな働きかけができるだろうか、自分に今できることは何なのか」、この考えを大切に行動に移していきましょう。人間関係や何かしらの出会いを運命的な良いものに変えていくのかもしれません。身近な環境でのたくさんのかな出会いや発見を満遍なく自身の宝物にし、縁を大事にしていきたいですね。（森本千雅）



**QOL…クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）。**  
最近は医療・福祉分野にとどまらず、一般的に「物理的・精神的生活の豊かさ」を差す言葉になっている。  
(参考「健康経営 日本人事部」)  
<https://jinjib.jp/kenko/keyword/detl/1073/>

## ～自粛を強いられる今だからこそできる取り組みや過ごし方を考える～ 障がいをもつ学生へのコロナ禍における支援の在り方



Q 7 経済状況が悪化し、大学生活もままならない学生に対して、どのような支援をされているか。

A. 経済状況の悪化による影響を受けた学生もいるが、それだけが原因ではなく、複合的な原因を抱える学生も多い。だからそれぞれの学生の背景を理解することを大事にしている。

そして、具体的な解決策となるべく練って、生活の安定と卒業を目指すようにしている。でも、どうしても上手くいかない時は、「人生ってほら、その時ダメでもちょっと待ってみたら状況が変わっていたりする。でも、そこには立っている時は精一歩になっているから、見えなくなるし、嫌になる。だから、その苦しい気持ちを受け止めつつ、『人生はあきらめない』」ということを思ってもらえるようにお話している。そういうことかと言うと、私自身が、関わっている学生の人生をあきらめないと気持ちを持って関わっているということ。また、思ひだけでは何も変わらないので、学生のベースを大事にしながら、具体的な解決方法と一緒に考え、行動していく。

様々なことが重なり自暴自棄になる学生もいると思うけど、どうかひとりで抱え込まないでほしい。そして、相談先に困った時はいつでも来てほしい。支援室は、単位取得などの授業のことだけではなく、学生の人生を丸ごと応援したいと思っています。

・まとめ 一インタビューを終えて

瀧本さんのお話を伺い、今の時代もこれからの時代も、もっと支え合う土壤が必要だと感じました。希薄な人間関係は孤立や孤独を生み、なかなかそこから抜け出せなくなります。だから、私達は相互理解の基に成立りつよい関係性を障がいがあるなしに関わらず築いていくべきです。

そして世界には、コロナ禍前から経済的にも精神的にも厳しい人がたくさんいます。自分だけの世界に籠るだけでなく、世の中を俯瞰的に見て、感じ、声に上げることをしていきましょう。今後私は、衛生面や安全面を考慮した上で、相手を深く知りて活動や取り組みに参加し、積極的に交流を図ろうと思います。

今回、「人間関係の構築の重要性」を改めて教えられました。自身の経験上、摩擦が起きて嫌になることもあります。でもそれと同時に、人の話を聞き刺され受け、悩みや相談を分かち合う「臨場性」に喜びや発見がありました。人間関係は、プラスとマイナス、どちらにも作用しないと作れないものです。だから地道に、いつか良い関係性が生まれることを願って生きていきたいです。

独りだけの世界、もしくは一人だけの快適な空間にいると、実は人間として大事なもの（何かをしたいという欲望、物事に対する問題意識、人間同士で起こる自身の葛藤等5）を失っているのです。自ら動き出し、知らなかった世界に飛び込み、自分の視野を広げることでQOLを向上させ、他人と共有することで自己を内面から見つめなおしていきたいです。（森本千雅）



＜参考＞

瀧本美子「大学生の豊かな学びを支えるための体制づくりに関する一考察 -コロナ禍のオンライン授業で失われた「臨場性」を適度に補完し、学生一人ひとりの経験や思いを伝え合い、人生の学びに変える授業づくりと、誰でも相談しやすい学生支援体制の整備を-」  
(全国大学生活協同組合連合会HP「特集コロナ休校中の学生支援のあり方」)  
[https://www.univcoop.or.jp/activity/teachers/pdf/pdf\\_covid19-column01.pdf](https://www.univcoop.or.jp/activity/teachers/pdf/pdf_covid19-column01.pdf)



## 今、就職活動に 変革が!?

### 最先端の採用事情 に迫る!!

コロナウイルスによって学生が影響を受けたものは数多くあります。その中でも、人生を左右するある出来事がコロナによって変化を起こしています。そう、就職活動です。

皆さんもニュースで目にする機会があったのではないかと思います。航空業界や旅行業界が採用の中止を決定、ないし採用人数の大半を削減を行ったことはまだ記憶に新しい出来事だと思います。

しかし、コロナが就職活動に及ぼした影響は全てがマイナスのものではありません。私自身、就職活動を通してコロナ禍における各企業の創意工夫を節々に感じていました。

今回は引っ越し業界のパイオニアである、アートコーポレーション株式会社の人材採用課長の山下茂様にお話を伺うことが出来ました。

Google, Zoomの便利機能紹介

## 毎日のスケジュール管理に！

オンライン授業になってから、ついつい課題を出し忘れてしまうことはありませんか？出席の代わりに、毎回の課題が平常点になる授業が増え、タスク管理が今まで以上に必要になってきます。そんなうっかりミスを防ぐため、効率的なスケジュール管理の手段として、Googleカレンダーをおすすめします！龍大生なら必ず一人一アカウントあるため新規登録の手間なしでログインできます。

### タスク設定

特におすすめ機能はタスク設定です。課題ができるたび、タスク機能を使って締切日を入力すれば、通知がくるので、課題の提出忘れを防ぐことができます。友達とも共有できるのも便利ポイントです！授業によってはGoogle meetを使用する場合もありますが、Google meetの通知もくるのでスムーズに授業を受けることが出来ます。

スケジュール管理を徹底して、オンライン授業をより効率的に受けることが出来るため、自己管理が苦手な人におすすめです。パソコン操作が苦手な人も簡単です。実際にタスクを設定する画面を見てみましょう。



筆者：本日はお忙しいなかお時間を頂きありがとうございます。早速質問なのですが、2020年度の採用はどのような形式で行われたのでしょうか。

山下：例年であれば、三度の面接全て本社に来て頂いて対面のみで採用選考を行っていました。オンラインという発想は一切ありませんでしたし、予定もありませんでした。しかし、コロナの感染拡大を受けて、一次選考はZOOMで実施し、二次ではZOOMか対面の選択制、最終選考では出来る限り対面という形で実施しました。

筆者：なるほど。ZOOMに慣れていない学生のために対面という選択肢を作っていたということですね。実際にオンラインで選考を行われてどのような感想をお持ちになられましたか。

山下：やはり非常に便利だと感じましたね。特に弊社の場合は、以前から実施していた対面での説明会やインターンを通じて、ある程度学生との距離感がつかめていたことも大きかったと思います。学生側も来る手間というのが省けたので楽だったのではないかと思います。

筆者：そうですね。就活生としての一意見ですが、対面ではなかったことで交通費が想定より数万円ほど浮いたので非常にありがたく感じました。先輩から聞いていた話と比べるとその点ではかなり恵まれていましたね。では、オンライン化によって苦労した点などはありましたか。

山下：かなり急ぎしらえでオンライン化の体制を構築したという点もそうですし、ZOOMの安全性の面で情報システム部門と議論することはありませんでした。

最終的には半ば強引に踏み切った部分もありましたね。使い方に関しても私たちの側でも色々な試行錯誤を行いましたし、学生の側に大学でどういった使い方をしているのか質問して参考にしたりもしましたね。

筆者：やはり、ZOOMというものがいきなり出てきたのもありますしその辺りは議論になるんですね。最後の質問なのですが、2020年度はオンラインに急速変更になったという形でしたが、2021年度はどのような計画なのでしょうか。

山下：2020年度の採用は予定変更に次ぐ変更で、かなりコロナに振り回されることになりました。それを踏まえて、21年度の採用はそもそも募集の段階から全てオンライン化してしまおうということで準備を進めています。オンラインをどうすればリアルに近づけるのかを意識してコンテンツ作りを進めてきました。インターンシップや会社説明会なども現在オンラインで実施ですが、対面の時よりもハードルが下がるのか例年よりも多くの学生が参加してくれています。弊社がコロナの影響で始めたオンライン営業を体験できるなど、オンラインならではのコンテンツも用意しています。

筆者：オンラインを対面に近づけると同時にその特徴を活用したものになっているんですね。採用活動の中取材にご協力いただきありがとうございました。

コロナによって与えられた影響は悪いものだけではありません。今回の取材で見えてきたのは、コロナ禍にあって何が出来るのか、このような状況だからこそ出来ることは何かを考えながら懸命に努力する人たちの姿でした。静まる気配が見えないコロナ禍において、このようなコロナと向き合い続ける姿勢には勇気がもらえる気がします。

（山口和樹）

## おうちで新歓～コロナ禍のNew Style～

昨年の冬に流行をはじめて以来、未だ収束の見通しが立っていない新型コロナウイルス。テレワークや時短営業、外出自粛など、それまでの日常から大きな変化が起きています。皆さんの身の回りでも、何かしらの影響があったのではないでしょうか。そんなコロナ禍において、大学の春の風物詩である新入生へ課外活動の勧誘にも変化が起こっています。今回は龍谷大学の学園祭実行委員会のメンバーにインタビューさせて頂き、コロナに対して知恵と工夫で立ち向かう学生の姿に迫りたいと思います。

筆者：今回はインタビューにご協力頂きありがとうございます。早速質問なのですが、2020年度の勧誘活動はどのようにして取り組まれたのでしょうか。

大森：我々は例年1月から新入生の勧誘に向けて動き出しています。ですからコロナウイルスの流行が本格化して、3月に新歓期間の中止が決定したときは流石にショックでしたね。なにせ数ヵ月分の準備が全て無駄になったわけですから。

筆者：言われてみれば、あの時期にzoomに一番慣れていたのは企業の採用担当と就活生だったのかもしれませんですね。

大森：そのあとすぐに頭を切り替えて、どのような形であれば勧誘を行うことが出来るのか、ということを新歓担当で話し合いました。色々意見が出たんですけど、オンラインで、という形に決まったのは5月ですね。

筆者：なるほど、例年通りの準備をしていたところからそのような形に変えるというのはかなりの葛藤があったと思います。その辺りのことをお伺いできますか？

大橋：オンラインでやる意味はあるのか、という疑問は当初ありました。参加してくれる1回生がいるのか、ましてや龍谷祭の開催すらわからない状況で、中々やりがいというものがないと見だせませんでした。

大森：ただ、龍谷祭の規模に比べるとそこまで多くない人数で活動しているので、開催の如何に関わらず次の世代を担う新入生には入会して欲しかった、という理由が大きな決め手になりました。

筆者：確かに単純計算でも新入生が1/4の人数を占めるわけですから、勧誘をしないとなると大きな影響がありますね。オンラインで新歓を行なうにあたって、やはり試行錯誤の連続だったのでしょうか。

大橋：まずどんなフォーマットを使えばいいのか、という点で躊躇しましたね。春の時点ではzoomや学校の推奨していたGoogle Meetがどう違うのか、どの様に利用すればいいかななど、全く知識がなかったのでそこから手探りでした。結果、当時話題になっていたzoomを選ぶことにしました。

大森：アイスブレイクもそうですけど、一番大きな効果を感じた取り組みは、グループ分けをして少人数でやりとりするということでした。これは対面のやり方をオンラインに落としこんだけなんですか効果観面でした。場に大勢いると誰とコミュニケーションを取ればいいのか分からなくなるのは、対面もオンラインも同じなんですね。

筆者：対面でもオンラインでも共通点は意外とあるものなんですね。オンラインで新歓をやった成果というものはどうだったのでしょうか。

大橋：計5回オンラインで開催したのですが、1回目は想定よりも多くの1回生が参加してくれましたね。

ただ、徐々に参加人数が減ってしまったところはオンライン特有の難しさを感じました。対面の時の参加者と比べるとどうしても参加人数という点では厳しいものがありましたね。

大森：今年度の龍谷祭は結局中止という結果に終わってしまいました。例年であれば今頃は次年度の企画会議などを行っているのですが、一回生とはまだ一緒に活動できていません。

大橋：でも悪いことばかりではないんですよ。実は12月に対面での説明会を実施できたんです。感染対策も厳しかったので、例年通りとはいきませんでしたが、龍谷祭の魅力を伝えることができたと思っています。

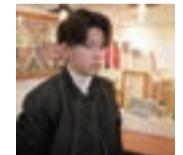
大森：入会希望の質問もTwitterやInstagramのDMにもチラホラ届いています。龍谷祭の実行委員は二回生も入会できるので、来年は二つの学年にアプローチしていくことになります。今年度の反省や気づきを踏まえて、次年度に向けての計画を練っている最中です。SNSでは新歓の情報だけでなく、普段の活動風景などもアップしています。新入生だけでなく皆さんに我々の活動を見に来ただけたらと思っています。

筆者：来年度無事に龍谷祭が開催できることを祈っています。是非頑張ってくださいね。

いかがでしたか。コロナで課外活動もすっかり様変わりしてしまいました。しかし、そのような困難な状況下でも自分たちに何が出来るのか考えて努力する、それも大切な学びではないでしょうか。今回のインタビュー記事を通してそのことが少しでも伝われば良いと思っています。

（山口和樹）

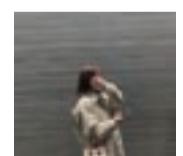
## 編集後記



拙い文章ですが最後までお読みいただきありがとうございました！！



コロナ禍で、1年間ほとんど大学との関わりを持つことがなかったので、このような形で大学の力になれる活動をすることが出来たことを嬉しく思います。



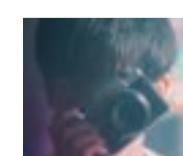
今年度は様々なイベントがオンラインで実施され、パソコンを使う機会が格段に増えましたね。皆様くれぐれも目の疲れ、視力低下にはお気付けください！



ほんの少し何か変える人になるきっかけになりますように。



今回私は、自身を取り囲む社会や環境に目を向け、考え、動き出すことの大切さを学びました。充実した日々を創るために「やってみる勇気」をもつことから始めましょう！



このようなご時世ですが少しでも前を向かなければと思いません。ありがとうございました。



大変貴重な体験をさせていただきました。お世話になった皆様、手に取ってくださった皆様に感謝でいっぱいです。少しでも皆様に何か届いていれば幸いです。



レイアウト班 武田浩希